

平成21年度 図書館事業評価

1 基本指標	平成20年度実績	平成21年度実績
市民1人当たりの蔵書冊数(蔵書冊数÷市人口)	3.9冊/人	3.8冊/人
登録率(市内在住個人登録者数÷市人口)	22.3%	22.2%
1日平均貸出冊数(各図書館の1日平均の合計)	8,323冊/日	8,860冊/日
蔵書回転率(個人貸出数÷蔵書冊数)	3.1回	3.5回
市民1人当たりの貸出数(個人貸出数÷市人口)	12.6冊/人	13.3冊/人
登録者1人当たりの貸出数(個人貸出数÷個人登録者数)	42.8冊/人	45.1冊/人

2 重点事業	取組状況
(1) 図書館基本計画・展望計画の推進と事業評価	図書館基本計画の周知と職員の意識向上を目的に職員全員が参加し研修を行った。 事業評価は、図書館の自己評価・図書館協議会の二次評価と利用者満足度調査の三つの方法で行った。
(2) 第二期図書館管理システムの運用	図書館管理システムの運用は大きなトラブルもなく安定的な運用が行えた。 ICタグ資料管理システムについては、自動貸出機の利用率が前年度比9%増の49.2%となった。また、セキュリティゲートの効果が大きく、無断持ち出しを抑止する力となっている。
(3) レファレンスサービスの拡充	中央図書館に専任のレファレンス担当者を配置した。 カウンターや電話で受けるレファレンスの他に、Webレファレンスの試行を7月より開始し、併せて図書館ホームページで事例の公開を開始した。 試行終了後のアンケートでは継続して続けてほしいとの意見が大半であった。
(4) 子ども読書活動推進計画の実施	「西東京市子ども読書活動推進計画2年間の成果と課題報告書」に基づき、関連する部署と連携を取り、問題の解決に努め計画の推進を図った。
(5) 図書館の所蔵する歴史的資料の修復及び保存・活用	西東京市総合計画に基づき図書館が所蔵する「寛文十年田無村御検地帳」310丁の修復を完了した。資料の劣化・損傷が著しく、修復が困難と判断した未修復分は中性紙保存箱にて保管する。修復完了分はデジタル化及び複製を作成し、市民への情報公開を可能とした。今後は地域史研究のための情報源として活用を図る。

平成21年度 図書館事業評価表

事業名	主要事業	事業実績	図書館評価（一次評価）	評価	図書館協議会評価（二次評価）	評価
1 図書館資料の収集と保存	・今日的要請に応える資料収集	21年度資料購入冊は35,144冊、全蔵書数に占める新刊書の割合は4.7%。(20年度は36,519冊、4.8%)	今日的要請にこたえた資料収集を実施し、安定したサービスを提供した。	B	資料購入冊数、新刊書の割合は適切であり、関係者の努力を評価したい。引き続き資料購入費等の水準維持に努めていただきたい。	B
	・資料保存計画の策定	資料保存計画は書架の総延長の調査を実施。	調査した書架の総収容量に合わせ、市民の資料要求を分析し今後の計画策定への方向性を明確にした。	D	市民ニーズに応じていくためには、経年資料の保存も重要である。他市の図書館との分担収集も視野に入れる必要があるが、当面は西東京市での充足度を上げることが喫緊の課題で、収容量アップのための方策を講じていただきたい。	D
	・特別整理期間の短縮	20年度の蔵書点検のための特別整理期間は52日（保谷駅前図書館への移行期間を除く）、21年度は40日と短縮している。	20年度はシステムの入替作業を行ったため期間が例年より増えた。21年度は、点検作業を1館ずつ実施することで、休館中でも市民が利用できるような環境作りを行った。	A	従来の全館一斉作業から各館での作業に移行し、閉館期間の短縮に努力している点を評価したい。なお、日数短縮により蔵書点検作業の確実性を損なうことのないよう配慮いただきたい。	A
2 施設・備品の整備	・中央図書館空調設備改修工事	事業完了。予算執行率33.5%	中央図書館空調設備改修工事は設備の老朽化に伴うもので、21年度は改修箇所が少なくすんだ。中央図書館の維持管理を継続する。	A	施設の老朽化が進んでいるので、引き続き改修を計画的に推進していただきたい。	C
	・中央図書館屋上防水改修工事	事業完了。予算執行率64.8%				
	・中央図書館機械室漏水改修工事	事業完了。予算執行率53.0%				
	・ひばりが丘図書館書架耐震化工事	事業完了。予算執行率87.7%				
3 図書館の情報システムの整備	・第二期図書館管理システムの管理運用	図書館管理システムに係る作業件数23回内訳は機器の故障（プリンター等の故障）対応が90%を占める。ネットワーク上のトラブルは2回。	システム障害には迅速に対応したので、利用者向けサービスへの影響は最小限に抑えることができた。	B	利用者サービスへの影響をきたさずシステム運営がなされていることは評価できる。	A
	・ICタグ資料管理システム（自動貸出機・セキュリティゲート）の管理運用	自動貸出機の稼働率は50%。不正持ち出しの大幅な減少	業務の効率化によりカウンター要員の削減等が図られ、公的財産管理の改善ができた。	A	ICタグ資料管理システムの導入による効果は評価できる。貼付場所に配慮されたい。なお、人員削減によるサービスの低下を招かぬよう留意されたい。	B
	・情報セキュリティポリシーの遵守	セキュリティ上問題となる事項はない。	情報セキュリティポリシーの遵守が適正に行われた。	A	日常的な注意喚起を期待する。	A
4 利用者と情報の安全管理	・利用者データの維持管理	利用者データの更新に関する検討会議を行った。	利用者データの保管は適切に行われている。データの更新を定期的実施するための検討を行った。	B	利用者データの更新が定期的に行われるよう検討いただきたい。	B
	・危機管理	危機管理マニュアルが完成。	危機管理室のアドバイスを受け、図書館の実情に即した危機管理マニュアルが完成した。	A	危機管理マニュアルの図書館職員・嘱託員への普及徹底を図っていただきたい。	A
	・個人情報の保護	個人情報に関するデータは、システム上はセキュリティを強化し、申請用紙等は施錠したケース等に保管し、保存年限が過ぎたものは適時シュレッダーで廃棄。	個人情報の適切な運用及び管理には常に細心の注意を払い、職員・嘱託員への注意喚起を行った。この結果、従来より職員・嘱託員の意識が高まった。	A	個人情報の保護が適切に行われていることは評価できる。「図書館の自由宣言」に基づき、個人情報の保護に対してさらに努めていただきたい。	A
5 図書館資料の効率的な提供の推進	・正確で迅速な予約/リクエスト処理と提供	方法別予約受付割合 Web71%、カウンター11%、館内OPAC14%、未所蔵予約4% 予約の提供率は86.4%と昨年より0.6%増	Webでの予約件数が予約全体の70%を超えている。予約者の取り置き期限超過の増加に対して、予約受付時の説明等を強化し、提供率を上げることができた。	A	全国的にもトップクラスの予約件数を処理しており、大いに評価できる。提供率を上げるための工夫をしている点も評価できる。	A
	・速やかな資料提供のための督促の効率化	ハガキ督促数は20年度は4,280通、21年度は3,922通。	平成17年度に開始したメール督促とカウンターでの注意喚起を行うことにより、貸出冊数が増加している中でハガキ督促件数は5年間連続減少している。	A	督促作業の効率化が図られている点は評価できる。さらに返却率を上げるための工夫をしていただきたい。	A
6 市民の読書活動の援助	・広報誌の発行	「図書館だより」発行回数4回、「広報西東京」掲載回数定例12回、不定期17回、「西東京の教育」	22年2月には、国民読書年にちなみ市報の一面に特集を掲載するなど、広報活動に力をいれた。	B	他市に比べて積極的な広報活動が行われている。広報誌という媒体以外で効果のある広報の在り方についても検討していただきたい。	B

事業名	主要事業	事業実績	図書館評価（一次評価）	評価	図書館協議会評価（二次評価）	評価
	・図書館ホームページの充実	ホームページの、トップページアクセス数2,679,921件、前年度比5.2%減。 資料検索アクセス数788,054件、前年度比11.9%増。 ログイン画面アクセス数872,599件、前年度比15.4%増 携帯電話からのアクセス数111,709件、前年度比27.2%増	資料検索やログイン画面へのアクセス数は増えている。また、携帯電話からのアクセス件数は3割近く増加している。図書館からのお知らせを掲載しているトップページへのアクセスを促す工夫が必要である。	A	トップページへのアクセス件数は政令指定都市並みの多さで、このことにより利用層の拡大が図られている。	A
7 成人サービスの推進	・蔵書構成のバランスに配慮した資料収集	利用実績に基づいて資料収集を行っている。現在の蔵書構成は、文学37.2%・社会科学15.4%・歴史10.8%が全体の63.4%となっている。	利用者のリクエスト、貸出実績等を反映し利用者ニーズに配慮した資料収集を図っている。さらに各館の蔵書構成に特色を持たせるなどの工夫をしている。	B	図書館全体としての蔵書バランスは取れているが、各館の蔵書構成の特色についてはまだ方針が不明確で利用者への周知が不十分である。今後の整備をお願いしたい。	B
	・成人対象の朗読会、講演会の開催	朗読会は3回実施、参加人数185人、講演会は2回実施、参加人数38人。	朗読会、講演会は回数、開催館が増加し充実させたが、講演会は集客数を増加させる工夫が必要である	B	朗読会は充実しているが、講演会については日程や告知方法の改善が求められる。	C
	・世代別、対象別サービスの調査・研究	対象別サービス実施のための検討会議を行った。	対象別サービスについては検討会議のみであった。22年度実施にあたって準備を継続して進める必要がある。	D	図書館サービスの高度化のためには、サービス対象ごとにきめ細かいサービスを行うことが重要なので、実現に向けて引き続き検討をお願いしたい。	C
7-1 一般図書サービスの推進	・予約多数本の複本・類書の対応	予約件数が300件以上の資料は20タイトルで平均複本率は15.5冊。 100件から300件以下の資料は175タイトルで平均は7.1冊。 50件から100件以下の資料は535タイトルで平均は4.1冊。	予約多数資料に対して、蔵書構成のバランスを崩すことなく提供を行った。また、寄贈資料の有効活用を図った。	A	一時的に予約の殺到する資料について、寄贈資料の活用などの工夫が図られている点は評価できる。	A
	・書架の新鮮度及び適正な書庫の管理	開架室の蔵書更新率は6.03%。緊急雇用創出事業を活用して、合併以降の汚損資料などの整理・点検を行い、書庫資料を中心に約3万冊の除籍を行った。	複本やデータの古くなった資料などを整理し、書架の鮮度の維持管理を図った。	A	合併以降の汚損破損資料の整理を行った結果、蔵書が更新され利用環境が改善された。	A
	・成人向けパンフレットの発行及び全館展示	全館展示は年3回。展示冊数当たり平均1.57回の利用回数。	全館展示は、時事の話題に対応した展示内容で利用の促進を図った。	B	書庫等に埋もれた資料の貸出にもつながり、利用促進が図られた。	B
7-2 視聴覚資料サービスの推進	・CDの計画的収集	所蔵数に対する貸出数の回転数は、落語が14.6回、朗読が7.97回、外国ポピュラーが7.78回となる。平均は6.89回	レンタル業者では提供されにくい、落語、朗読資料など非音楽資料を重点的に収集しサービスを実施している。	B	CDの収集方針及び利用促進についての広報を強化する必要がある。	B
	・寄贈映像資料の提供	官公庁及びそれに準じる機関が発行した寄贈映像資料の提供は選定分類を終えたが、装備が完了せず未実施。	寄贈映像資料は22年度内に提供できるような体制を整える。	D	未整備の寄贈映像資料については速やかに利用環境を整えていただきたい。	D
	・映像資料の収集・提供の在り方の検討	市販されている映像資料の収集や提供を検討する会議を開催した。	サービス実施のための準備を継続して進める。	D	継続検討の促進を求めたい。	D
7-3 逐次刊行物サービスの推進	・市民要求に合う雑誌・新聞の収集	7月から1月まで利用調査を実施し、その結果に基づいた22年度購入リストを作成。	利用調査に基づき22年度の収集見直しを実施。	B	収集見直しの結果、合理的な判断がなされたが、一方で各館でのサービス低下も見られ、利用状況を見たいうえでさらに検討していただきたい。	C
	・保存期限の見直し	保存期限の見直しの検討を開始。	継続して検討を進める。	C	西東京市だけでは困難なので、近隣図書館、地域図書館との連携を視野に入れて検討していただきたい。	C
8 レファレンスサービスの推進	・市民の調査・研究活動の援助	レファレンスカウント8,554件。 レファレンス記録数78件。	レファレンスカウントは前年度に比して3%増加した。これはカウント漏れのないように徹底化が図られた結果である。また、専任の担当者を配置し効果があったためレファレンス記録数は2.5倍になった。	B	中央館への専任担当者を配置した点は評価できる。さらに利用者に対して図書館でのレファレンスサービスそのものを周知する必要がある。	B
	・ホームページでの事例紹介	ホームページ事例公開156件。 アクセス件数2,357件（月平均261.9件）	ホームページでの事例公開は、順調なスタートができた。	B	全国的にも先行したサービスで、評価できる。過去の事例公開によってレファレンスサービスの重要性への認識が高められることを評価したい。	A
	・Webレファレンスの試行	試行期間（7月から12月） レファレンス件数20件。平均回答日数3.8日	施行期間に行ったアンケート結果では概ね好評を得た。本実施を希望する利用者が多かったが、もっと市民へ周知する努力が必要だという意見が目立っている。	B	試行期間の実績を踏まえ、本実施につなげたことを評価する。	B
	・利用者用インターネット機器の更新	中央図書館・柳沢図書館・ひばりが丘図書館の機器の入れ替えを実施。利用者数10,353人（保谷駅前図書館を含む）	利用者用インターネット機器の更新により、機器の再起動の時間短縮が行われ、提供の迅速化によりサービスが向上した。	A	利用が著しいので台数増加などの対策が必要である。	C
9 児童サービスの推進	・計画的な資料収集	児童図書購入冊数9,043冊、蔵書178,786冊、更新率5%	20年度の実績は、購入冊数10,625冊、蔵書177,711冊、更新率6%であり、前年度と同様の更新が図られている。	B	基本的な児童図書の整備状況については評価できるが、選書の精度をさらに高める努力を望みたい。特に、児童ノンフィクション部門を強化する必要がある。	B

事業名	主要事業	事業実績	図書館評価（一次評価）	評価	図書館協議会評価（二次評価）	評価
	・学校・公共施設・地域等との連携	団体貸出の年間利用数は、市内の小・中学校、児童館等延べ359箇所、52,825冊を貸出。毎週木曜日図書館配送便で運搬。	合併時（13年度）38,160冊と比較し38.4%の増加。要因のひとつとして図書館から配送することで利用団体の負担が軽減され気軽に利用できる点があげられる。	A	学校等との連携は非常に評価できる。特に、物流についての取り組みは評価できる。	A
	・地域活動ボランティアの支援	講師派遣事業16回、共催事業11回を実施。	講師派遣・共催事業については、要望が増加傾向にある。今後は要望に応えるため職員の資質向上や体制づくりが必要となる。	B	図書館側の受け入れ目的を明確にし、さらに受け入れ態勢を整備していただきたい。	B
10 ヤングアダルトサービスの推進	・計画的な資料収集	ヤングアダルトを対象とした図書を収集している館では収書バランスを考慮した選書を行った。購入冊数1,314冊。	ヤングアダルト世代からの投書や貸出利用状況などを検証し、所蔵する館の収容量に応じ計画的な購入をしている。	B	この世代の利用者の要求を反映し、資料収集していることを評価する。引き続き充実を図るよう望みたい。	B
	・YA世代との共同編集の検討、計画策定	共同編集実施計画検討会議を行い、計画の概略とスケジュールを作成。	共同編集を継続した取り組みとするため計画の検討を十分行なっていく必要がある。	D	計画に基づきすみやかな実施を望む。	C
	・職場体験の受け入れ	中学生の受け入れ 市内9校のうち9校が実施、延べ日数60日、体験生徒63人（延べ人数175人） 高校生の受け入れ 1校、4日、2人（延べ人数2人）	市内中学校の職場体験は年々日数が増える傾向にあるので、生徒の受け入れについて中学校と連携して進めていくことへの努力が必要である。	A	若い世代に図書館を理解してもらおう意味でも、この取り組みは大いに評価できる。	A
11 地域・行政資料サービスの推進	・資料の収集・保存	地域に関する資料年間受入れ数3,874冊。 西東京市関係新聞記事データ数5,345件。 ホームページ新聞記事索引アクセス件数3,087件（月平均257.3件）	地域に関する資料総数約83,000件、西東京市関係新聞記事データ総数約67,000件となり、西東京市に関する情報提供を求める市民ニーズへの対応が進んだ。 また、インターネットでは著作権上の制限により記事の内容を出すことはできないが、毎月多数の利用があり利便性の向上が図れている。	A	西東京市に関する資料の収集に関しては評価できる。特に、新聞記事索引については先進的な取り組みであり大いに評価できる。このサービスについては利用者への周知を図っていただきたい。	A
	・写真展の開催	「なつかしの田無・保谷写真展」パネル数185点、参加者数255人、アンケートによる満足度87.6%。 「図録」を作成し、市内各学校、関係機関へ配布した結果、11団体、311点のパネルの利用があった。	写真展開催と「図録」の配布により、図書館が所蔵する写真資料の利用が高まった。情報提供の成果物が新たな地域資料となって受入に反映し、地域情報の収集が進んだ。	A	写真資料のパネル化など利用環境を整え、利用促進が図られたことは評価できる。	A
	・歴史的資料の修復	「寛文十年田無村御検地帳」310丁の修復完了。デジタル化により、レプリカ、複本作成。	修復により情報公開が可能となり、地域史研究のための情報源として提供ができる。	A	貴重な歴史資料の電子化による公開、レプリカ作成など地域史研究に貢献した。今後の活用促進のための方策を考えていただきたい。	A
12 ハンディキャップサービスの推進	・利用者の拡大	利用促進のための他機関との会議回数22回により、障害者団体、グループ、通院患者への車載パンフの作成によるPRを実施。 新規利用者2名。 潜在的利用者（市内視覚障害350名）へのPR方法について、障害福祉課へ状況を確認し、図書館との連名による文書の郵送について協議を行った。	宅配サービスのPRを実施した。 今後は、潜在的利用者へのアンケート調査、民生委員を通じたPRが必要である。	B	関連機関との連携により潜在的利用者への積極的な広報活動を行った点が評価される。	B
	・音訳図書・点訳図書の作成と情報提供	音訳テープ作成タイトル数40タイトル166巻 点訳図書作成タイトル数6タイトル28冊 音訳資料貸出数1,528タイトル4111巻 点訳資料貸出数47タイトル、60冊 このほか、「広報西東京」ほか声の広報82回、延べ2,360人利用	利用者のリクエストによる音訳・点訳資料の作成、借用による貸出を実施した。「広報西東京」ほか声の広報を継続して提供することが可能となった。	A	大いに評価できる。引き続き充実を図るよう努めていただきたい。	A
	・デジター編集者の育成及びデジター資料の作成	デジター編集者養成数8名（合計24名） デジター資料作成数15タイトル	デジター編集者の養成セミナーを実施するとともに、既に活動している編集者によるレクチャーの併用で、新規編集者を獲得した。 デジター機器整備事業が課題である。	B	順調な取り組み状況を評価したい。	B
	・宅配サービス拡充の検討	宅配件数67件、546冊 来館困難な利用者のための宅配サービス実施計画のための検討会議を実施	宅配サービス先進地域の運用方法について調査を実施。今後、策定が求められる。	B	高齢者を含めた来館困難な利用者への宅配サービスを評価する。	A
13 子育て支援事業の推進	・子ども家庭支援センターとの連携及び事業の継続	絵本と子育て事業 32回・1,577名（対象者の99%）に対して実施。	配布数は、目標を達成している。図書館利用者へとむすびつけるPR方法を検討し充実を図ることが必要である。	A	ブックスタート事業は一定の定着は見られたが、継続的な図書館利用に結び付くようさらに工夫が必要である。	A
14 子ども読書活動推進計画に基づく事業実施	・報告書に基づく課題の確認及び計画の推進	報告書に基づく課題の確認をした。 課題数47のうち、実施継続57%・要充実31%・未実施5%	22年度は「第2期西東京市子ども読書活動推進計画」を策定するが、特に要充実・未実施課題について検討が必要である。	C	策定された「推進計画」の積極的な周知、広報に力を注いでいただきたい。	B

事業名	主要事業	事業実績	図書館評価（一次評価）	評価	図書館協議会評価（二次評価）	評価
15 類縁・関係機関との連携	・多摩六都及び四市行政連絡協議会協力事業の推進	西東京市民以外への資料の貸出の割合は、20年度20.7%、21年度21.6%。	他自治体との境界に建つ保谷駅前図書館とひばりが丘図書館は広域的な利用が多い。市民以外の利用者の相互貸借の在り方を整理することが必要である。	B	他自治体からの利用にあたっては、本市民のニーズを尊重していただきたい。	B
	・他図書館及び公共施設との協力事業の推進	各図書館からの借出数11,530冊(都立図書館・国会図書館からの借出を除いた借出数は7,070冊)及び貸出数8,730冊 児童館等のおはなし会等の開催回数12回	他区市立図書館への貸出数が借出数を上回っており、相互協力に寄与できた。市内公共施設との協力事業を拡充した。	A	他図書館、及び市内公共施設との積極的な協力事業の推	A
15 類縁・関係機関との連携	・武蔵野大学協力事業の推進	武蔵野大学図書館利用カードの貸出回数101回。 図書館講座講師派遣1回。 インターンシップ生の受け入れ 2名	さまざまな協力事業を実施し、今後も継続して事業を推進していくことが必要である。	A	大学図書館との連携は重要であり、今後もさらに進めることが望ましい。	A
16 職員研修	・課内研修の計画的な実施	研修件数22件、延べ参加人数281人(平均参加者数12.8人)	年度当初に職員全体の研修会を実施し、特別整理期間中には各館で職員・嘱託員の研修を実施した。	C	研修計画に基づき定期的により一層の取り組みを望みたい。	B
	・外部研修への参加等による資質の向上	外部研修件数14件、延べ参加人数24人(平均参加者数1.7人)	図書館関係の研修に参加し、専門知識の習得ができた。	C	研修計画に基づき外部の知識や経験をより一層の取込みを運営に役立ててほしい。	B
17 図書館サービスの評価	・事業評価の実施及び公開	平成21年度17事業に対して図書館で自己評価を実施、また、図書館協議会の二次評価を実施し、その結果を図書館ホームページ上で公表予定。	平成21年度の事業評価を踏まえ、今後の図書館運営に反映させる。	B	他市に先がけて、初めての事業評価を実施できたことを評価する。	A
	・利用者満足度調査の実施	利用者満足度調査を4月13日～30日まで実施。 回答数978件 評価点数3.95	統計数値に基づく事業評価では把握できない利用者のニーズ・満足度を定期的に把握する。	B	利用者が実際に望んでいることを把握し、図書館運営に反映していただきたい。	A

- 評価……
- A 事業計画にある施策事業を概ね達成した。
 - B 事業計画にある施策事業を一部達成し更なる充実を図っていく。
 - C 事業計画にある施策事業を継続し実施していく。
 - D 事業計画にある施策事業の一部は進展が見られるが更なる充実を図っていく。
 - E 事業計画にある施策事業の進展が見られない。

DAISY(Digital Accessible Information System)